



2024年12月発行

紫緑会だより

京都大学医療技術短期大学部同窓会
京都大学医学部人間健康科学科同窓会



会長あいさつ

紫緑会会長 徳野 治

京都大学医療技術短期大学部衛生技術学科 1994年卒業

卒業生の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。2024年4月より2年間、紫緑会第18代会長を拝命しました、徳野 治と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

紫緑会は、前身校である医療技術短期大学部において1978年に設立されましたが、実質的にはそのさらに前身校なる医学部附属看護学校と医学部附属臨床検査技師学校を統合しており、以来、現在の医学部人間健康科学科・大学院医学研究科人間健康科学系専攻に至るまでの連綿と続く歴史において、数多くの卒業生が加入する同窓会です。また近年、卒業生が、人間健康科学系専攻をはじめ各大学等の専任教員として教育的立場に着任している例も増えていきます。紫緑会は、年一回の「紫緑会だより」の発行をはじめとし、看護・検査・理学・作業の各支部で開催される交流会やキャリアパスセミナーなどを通じて、卒業生はもちろんのこと、在學生も自身の将来を考えながら楽しみにして参加できるような情報交換の場にしたいと考えております。紫緑会はそのような相互関係を少しでも築いていき、絶やさないようにする互助を目指しています。今後とも紫緑会の発展のために皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



顧問あいさつ

紫緑会顧問 青山 朋樹

京都大学医学部人間健康科学科 学科長

紫緑会の皆様はますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。

2024（令和6）年は、京都大学医学部・医学部附属病院が1899（明治3）年に開設されて以来、創立125周年を迎えます。そして、人間健康科学科も京都帝国大学医科大学附属医院看護婦見習講習科開設から数えると創立125周年を迎えることとなります。この記念行事の一環として、これまでの人間健康科学科の歴史を医学研究科ホームページに、125周年記念サイトとして掲載しました（<https://125th.med.kyoto-u.ac.jp/history/human-photo/>）。こちらを拝見しておりますと、先人の皆様に築いてきていただきました様々な物事と現在とのつながりを感じます。ここ10年くらいの間には新しい技術やプロジェクトが出現しており、一見すると全くの新技術に見えます。しかし、これらも卒業生の皆様に積み重ねてきて頂いた実績や社会的信用が、独自性のあるプロジェクトとして花開いている結果ではないでしょうか。

次の節目は人間健康科学科創立150周年です。次の世代に良い形でバトンを引き渡せるように教職員、在學生一丸となって努めてまいります。これからもどうぞよろしくお引き立ての程をお願いします。

卒業生の近況報告

「毎年会えることを楽しみに」

看護学科 1990年卒 片岡（西田） 紀子



卒業後、同級生はそれぞれの道に進み、私は看護師として働き始めました。京都で結婚・出産を経て、たまたま子供の部活で同級生と再会しました。

個々のつながりで数名集まったことがきっかけで、それぞれがつながっている同級生に連絡、ラインの活用でどんどんつながり、2016年6月に28名で同窓会をいたしました。30年近く会っていなかったのに、会うと学生時代に戻ってしまい時間を忘れて過ごしました。

皆さん、いろんな職種に就いておられ、それぞれの近況報告や情報交換をし、年令的にも責任ある立場の方々もおられました。職種が違っていても根底に看護学を学んだ仲間でしたので、とても刺激になりましたし、一般の方には伝わりにくい苦労話を話せる場となりました。

つながっていない方もおられますが、今では51名ラインでつながることができました。

全国各地、外国にいる同級生も、学生時代過ごした京都に、今度は行けるかもと思ってもらえるよう、及ばずながら幹事となり、毎年同窓会ランチと称して、皆さんにお声をかけております。コロナ禍ではさすがにできていませんが、昨年からの復活、今年も24名集まり楽しく過ごすことができました。

私にとっては元気になれる毎年の行事となっております。



「興味が強化された場所」

理学療法学専攻 2011年卒 大塚 直輝



私は2024年月8月30日現在、株式会社 ORPHE というスタートアップに勤務しています。が、おそらく10月には別の会社に籍を置いていると思います。これまで、アシックス（スポーツ用具の研究開発）→JINS（機能性メガネの研究開発）→アビームコンサル（動作分析アプリの開発）→ORPHE（スマートシューズの研究開発）→次の会社と、多くの会社を渡り歩いています。そんな中で、過去に所属した会社から継続して仕事をいただくこともあり、自分が今どこに所属しているのかについて無関心になりつつあります。本来的には、個人事業主として活動したりや自分の会社を持ったりするべきかもしれませんね...

今風に言ってしまうえば、組織や肩書きにとらわれず、ジョブ型雇用の中で生きていく訳ですが、自分の働き方を振り返ってみると一つの軸があると思っています。

それは、人を計測したりセンシングしたりすることへの強烈な興味です。計測結果に基づいてモノづくりをしたり、計測結果を解釈性の高いフィードバックに昇華してアプリケーションに搭載したり、そんなことばかりをしています。これは自分の根本的な性質の影響もありますが、理学療法学科で学んだ「評価の重要性」の影響も多分に受けていると感じます。評価が正しくできれば介入（ソリューション）は自ずと... という思想には非常に共感しているのですが、世の中は意外と評価なしの安易なソリューションに満ち溢れています。自分としては、そんな状況に不満があり、これまでのような仕事をしているのかもしれない。

現職（や次の会社）では、SaMD（Software as Medical Device）と言われる新しい形の医療機器の開発に携わっています。少し離れていた医療の世界に、また戻ってきてしまいました。自分の興味がそうさせているのでしょうか。

理学療法学科が、学生の個性や興味が強化される場所であってくれたらと願っています。

「南の島より」

検査技術科学専攻 2008 年卒 医科学専攻修士課程 2010 年修了 石田（中川） 莉彩

大学院卒業後、京都大学医学部附属病院検査部の細胞分析部門で6年間勤務しておりましたが、結婚を機に沖縄へと引っ越すこととなり、2016年から沖縄科学技術大学院大学(OIST)の細胞シグナルユニットでテクニシャンとして働いています。

OISTは公用語が英語なこともあって海外からの研究者や学生が多く集まっており、国際色豊かな環境が特徴です。キャンパスの中でも私のラボは海が一望できる位置にあり、デスクから絶景を眺めながらお仕事させてもらっています。



ここではラボのメンバーが快適に研究できるように、試薬や機器の管理、消耗品を含めた備品の発注などの運営の一端を担いつつ、与えられた研究テーマに関する実験を日々行っています。分子細胞生物分野の実験は一から教えてもらうことも多かったですが、検査部時代に培ったピペットさばきは大いに活かされ、一度に大量のサンプルを相手にしても慣れたものでした。

2度の育休を経て、今は子育てに奮闘中の毎日ではありますが、実験は自分でスケジュールを調整しながら進められるので、行事やイレギュラーにも対応しやすく、それを許容してくださっている教授や同僚にも感謝しています。

なかなか自己研鑽からは遠のいていますが、子どもたちとの時間も大切にしながら、これからも少しずつ成長したいと思っています。



「関西人には負けません！」～ All is well that smile well ～

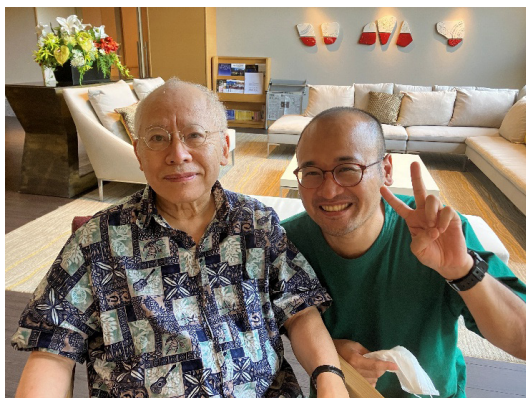
保健学科作業療法学専攻1期生（2008年卒）白鳥 博之

19歳、千葉県出身の私が入学時の自己紹介で発したこの言葉で後に同期から熱い洗礼受けたのは言うまでもない。あれから20年経った今、私は京都で総合内科の医師をしている。

元々リハを受ける患者だった経験からOT学科を選んだ。個性溢れる同期に恵まれ、よく学ばずよく遊ぶ学生生活を過ごした。山根先生をアフロにしたり、他専攻との交流会と称し今はなき中庭で流しそうめんのイベントをしたりと印象的な学生だったと思う。卒後OTとして末期の小児がんの女の子との出会いは人生の糧となった。病室のドアを初めて開けた時、彼女はボラスを押し不安そうな表情でギャッジアップにも怖がっていた。関わりの中で特製の机を作ることで院内学級への参加が可能になり、特製リクライニング車椅子でディズニーランドにも行った。誕生日にバンドメンバー（私のみ医療者）を小児病棟に呼びバースデイソングを歌った際、彼女が見せてくれた笑顔と溢れる涙は私にとって生涯の宝物になった。人は作業を通して幸せになれることを再確認した。

臨床経験を経て大学院に進学した。岩隈研究室で学んだ医学コミュニケーション学は私の視野を広げ、修了後は訪問リハに加え不登校児への教育的サポートも始めた。地域ではかかりつけ医と顔の見える関係が難しく迅速に相談ができないこと、子どもたちへの学習サポートまで学校側の手が回っていない現状を肌で感じ、多職種連携協働(IPW)の難しさを痛感した。果たして「その人らしい生活」を支援できているのか、療法士が大事にしたいと考えているリハを提供できていない現状に頭を抱えた。私は多職種と一緒に地域を診る医師になりたいと一念発起し医学部受験を決意した。家賃15000円、外国人とのシェアハウスに住み、生活費を切り詰め仕事以外の時間全てを受験勉強に費やした。苦節4年、鳥根大学に3年次編入した。

現行の医学教育では、医学生が「多職種を理解する」には限界があり、医師がリハに対して一知半解な理由もわかった。編入同期に生まれ学生の中に多職種への理解を広める活動(1,2,3,4)さらには中高生の居場所「てごほ～む」5)を作り、行政や学校の先生ともIPWするという貴重な経験をした。



右：白鳥 左：山根寛先生

そして研修医を経て今年、帰京した。医師になってからも患者の語りそして多職種からの視点は大切にしている。今後、医師として医療職だけに留まらない多職種連携の力を信じて一緒に患者の笑顔を引き出せるような在宅医を目指したい。光栄なことに学生時代からお世話になっている医短13期卒で元助教の白井先生(旧姓内山)にお誘いいただき小中学生のフリースクール「カンガルーハウス」6)にも微力ながら関わらせていただいている。仲間がいる京都で新たなワクワクが始まった。

- 1) 白鳥博之. 私のIPE体験-作業療法士から医学生になった私の役割. 保健医療福祉連携. 2020, vol.13, p.30-33.
- 2) 白鳥博之他. 「地域に根差したIPE(多職種連携教育)カルチャーを学生が作る試み」第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 2020, 理事長賞受賞, 鳥根大学学長賞受賞.
- 3) 白鳥博之. 「コアとなる連携の価値のもとに、多職種連携をどう学んでいくのか～準備状態を踏まえた方略を考える」第14回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 2021. シンポジスト.
- 4) 白鳥博之他. 「学生が主導で多職種連携を実践するSIPSの立ち上げと活動～コロナ禍の1年を振り返って～」第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2021. 学生セッション「活動報告」部門, 最優秀賞
- 5) 村上晴彦, 佐藤桃子他. すき間の子ども, すき間の支援-てごほ～むの実践から-. 明石書店. 2021. p134-141
- 6) カンガルーハウス HP <https://kangaroo-house.jimdosite.com/>

在学生からのお便り

「学び直す・学び重ねる時」

先端看護科学コース修士課程 2回生 南方 咲季

私は2016年に本学の人間健康科学科を卒業し、京大病院で7年間勤務した後、昨年度より大学院の学生となりました。病棟看護師としての業務の中では解決出来なかった課題を、自身の研究課題としてじっくりと取り組んでみたいと思い、学び直す・学び重ねる時を過ごしています。

大学院生となった当初は、看護師として業務と時間に追われ頭の中を分割するように使っていた「仕事の思考」と、大学院生として1つの疑問から深く掘り進めていくような「学びの思考」の違いに戸惑いを感じていました。しかし、いつの間にかその戸惑いも薄れ、看護学や関連分野についてより専門的な知識を先生方からご教授いただけること、異なる専門性を持つ同級生や先輩方と議論しながら自分の研究課題について熟考することは、おもしろいと感じられるようになりました。また、これまでの経験の上に新たな知識が重なり、臨床での視点も活かされることで、学びに深みが増していると感じています。

最後に、それぞれの目標に向かって前向きに取り組む大学・大学院の友人たち、豊富な知識と経験を惜しみなく分けてくださる京大病院の同僚や先輩方、そしていつも熱心にご指導くださる先生方のおかげで、今の自分があることに心から感謝しています。これからもこの感謝の気持ちを忘れずに研究や仕事に励みたいと思います。



「自由の学風」

総合医療科学コース 4回生 野間 隆寛

入学したころからすでに京都大学は不自由になったといわれていました。タテカン規制や11月祭での酒類持ち込み規制に加えコロナ禍における様々な制限が立ちはだかり、たしかにfreedomという意味での自由な学風ではありませんでした。一方で振り返るとLibertyという意味での自由の学風は大いに享受できたと思います。求めれば先生方はしっかりと応えてくださいました。実験がしたいという学部2回生からラボをつかわせてくださり、エチオピアやインドでフィールドワークをしてくるといって実験手技を丁寧に教授してくださいました。超音波エコーをマスターしたいとお願いすると二つ返事で実技講習を提案していただいたこともありました。他にも学恩は数えきれません。全て自分で選び取ったものであり、そして先生方がおしみなく分け与えてくださったものでした。学業だけにとどまらず京都という土地に見守られながら、友人と街全体を闊歩し多くのことを話し時には真剣に遊ぶ、そんな学生生活を送れたのはこの上ない宝です。2月には国家試験を控え、春からは大学院に進学する予定です。学部での学びを礎に臨床でも研究でも経験を積み、様々な成果を大学や京都に還元できるよう精進していきたいと思っています。



マラリアを探しに行った
エチオピア・ジンカでのギムザ染色

「私の充実した4年間」

人間健康科学科先端作業療法学講座 4 回生 松中 さち

先端作業療法学講座4年の松中さちと申します。入学してからは、オンライン授業がほとんどでしたが1年の後期からは全て対面授業になり、ありがたいことに病院での実習も全て実施することができました。この大学生活を振り返ってみると、学校生活も課外活動も充実した4年間でした。現在私は、学業に励みながら2つの学生団体に所属しています。一つは日本作業療法学生連盟（JAOTS）の理事です。全国の作業療法学生のために交流イベントや講演会を企画し運営する活動を通して、作業療法士を目指す志の高い学生とつながることができました。もう一つはTOM JAPANという多分野の学生で当事者の視点を大切にしながら支援機器を開発する学生団体に所属しています。医療系の学生だけでなく、デザイン系、工学系の学生とも学びの共有ができ、さらに団体に所属する当事者の学生（車椅子ユーザー）と一緒に生活することで当事者の目線を理解することができました。学生生活の経験を活かし、次年度からは、仲間と切磋琢磨しながら自己研鑽に励み、患者様に寄り添える作業療法士を目指して臨床経験を積みたいと思っています。



「近況報告」

先端理学療法講座 4 回生 小山 緋理

コロナ禍から始まった大学生活も残り約半年となりました。この3年半は非常に充実しており一瞬で過ぎてしまったように感じます。1回生はオンラインでの授業が多く、部活動においてもさまざまな制限がかけられていましたが、2回生以降はすべての授業が対面となり、3回生以降の病院実習もすべて予定通り実施することができました。2度の長期実習を終え、授業で学んできた知識や技術を臨床と結びつけるとともに、これまで以上に理学療法の深さや面白さに気付くことができました。現在は、約2か月後に控える卒業研究の発表・論文提出に向け、実験や解析に励んでおります。トレーナーとしてだけでなく人として大きく成長させてくれた陸上競技部での活動も、9月末の大会を持って引退となります。生活の中から部活動がなくなり、卒業研究や国家試験に向けた勉強に割く時間が多くなることには寂しさもありますが、来年度から就職予定である私にとっては残り僅かな学生生活です。家族をはじめ、この恵まれた周りの方々や環境に感謝の気持ちを忘れず、最後まで学び続け、後悔のない有意義な半年間を過ごしたいと思っています。



支部の活動報告

看護支部 2023 年度活動報告

看護支部 北久保和加子（1978 年卒）

いつも同窓会活動にご支援いただき有難うございます。1年に1回の活動ですが、昨年度も、2024年1月20日に紫緑会・京大病院師長 OB 会合同 Web 交流会を開催することができました。今回はハイブリッドで京大病院の会議室会場に、役員も含め15名が集まり、Webでは6名の参加がありました。京大病院の井川看護部長から京大病院看護の変遷の話に始まり、交流会は毎年参加して下さる大先輩から若者までの21名で、会場は懐かしい話や今生き生きと活躍している話、年代を超えて、それぞれの元気な様子も伝わり、とても楽しいひと時でした。参加いただいた皆さんには京大 ロゴのメタルチョコを記念に贈呈し、同じ味わいを共有して連携を深めました。



紫緑会役員名簿

会 長	徳野 治（衛生技術学科 1994 年卒）	委 員	中嶋富士子（看護学科 1998 年卒）
副 会 長	梶原 香里（作業療法学科 1985 年卒）	〃	中井 葉子（専攻科 1993 年卒）
事務局 長	伊藤 明良（理学療法学科 2010 年卒）	〃	日高美登里（専攻科 1988 年卒）
幹 事	幸野 里寿（看護学科 1988 年卒）	〃	上野 裕達（衛生技術学科 2002 年卒）
常任委員	平伴 英美（検査技術学科 2009 年卒）	〃	川原 幹夫（衛生技術学科 1984 年卒）
〃	島 浩人（理学療法学科 1987 年卒）	〃	穂積 順子（衛生技術学科 1995 年卒）
〃	藤善 将（作業療法学科 1991 年卒）	〃	松尾 英将（検査技術学科 2011 年卒）
幹 事	門 恵子（看護学科 1993 年卒）	〃	池添 冬芽（理学療法学科 1992 年卒）
委 員	浅瀬万里子（看護科学コース 2022 年卒）	〃	建内 宏重（理学療法学科 1998 年卒）
〃	奥藤美智子（看護学科 1978 年卒）	〃	宮坂 淳介（理学療法学科 2005 年卒）
〃	北久保和加子（看護学科 1983 年卒）	〃	草野 佑介（作業療法学科 2008 年卒）
〃	清水 智子（看護学科 1988 年卒）	〃	森脇みなえ（作業療法学科 1995 年卒）
〃	龍野 和恵（看護学科 1978 年卒）	顧 問	青山 朋樹（特別会員）



京都大学同窓会紫緑会への

ご寄付のお願い

「ご挨拶」のところでも述べましたが、本会は設立以来、50年近くの連綿と続く歴史において、数多くの卒業生が加入する同窓会です。この「紫緑会だより」の発行をはじめ、看護・検査・理学・作業の各支部で開催される交流会やキャリアパスセミナーなどを通じて、卒業生や在生も楽しく参加できる情報交換や互助の場にしたいと考えております。実際、これまでも各界での指導的立場の人材も本学からの卒業生として輩出されてきました。

そのような趣旨をご理解いただいたうえで、誠に恐縮ながら、皆様に僅かばかりのお願いがございます。これまで紫緑会におきましては、会員の皆様方からの“寄附金”（入会金）を財源として各種・各支部の諸活動を行ってまいりました。

しかしながら昨今の日本経済の低迷ひいては各家庭の経済状況が大きく影響しており、また、個人情報保護の観点から卒業生の追跡が非常に困難になっていること等々、諸事情重なりまして、紫緑会への入会者は急激な減少の一途をたどっております。このため今後10年で本会の財源は枯渇するとの試算もあり、本会の存続そのものが危ぶまれる事態となっております。

紫緑会は現在、財源確保の方策についても入会金への依存のみならず、様々な方向で検討を始めております。しかしながら一方で、これまでと同様の同窓生の皆様からのご厚意もたいへん大きく貴重なものであり、また、人間健康科学系専攻の先生方におかれましては、在生（ゆくゆくは卒業生）への指導的立場として本会の趣旨にご賛同いただけましたら、これほど幸甚なことはございません。

今後とも紫緑会の発展のために、皆々様の温かいご支援を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。ご寄付にご協力いただける方は、下記の口座までご送金ください。

紫緑会会長 徳野 治

1口2,000円で、口数は任意です。

振込先：ゆうちょ銀行

記号：14460-2

番号：5172521 名義：紫緑会

*全銀システムによる他金融機関からの振込サービスをご利用の場合は、

店名：四四八（読み：ヨンヨンハチ）店番：448

預金種目：普通預金 口座番号：0517252

名義：紫緑会

紫緑会活動報告

2023年度 会計報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

〔収入〕	
会費 (14名分)	420,000
寄付	401,421
利息	6,506
合 計	827,927
〔支出〕	
事務費	561,790
会議費	25,000
通信費	363,812
印刷費	156,200
ホームページ管理費用	17,600
合 計	1,124,402

支部助成金 (内訳)	
看護	(3,200)
検査技術科	(50,000)
理学療法	(50,058)
作業療法	(32,536)
専攻科	(0)

135,794
支出合計 1,260,196

前年度繰越金 12,121,141
次年度繰越金 11,688,872

2024年度 予算案

(2024年4月1日～2025年3月31日)

〔収入〕		
会費* ¹	(1口 30,000円)	450,000
寄付		200,000
利息		2,000
合 計		652,000
〔支出〕		
事務費* ²		570,000
会議費* ³		25,000
通信費* ⁴		20,000
印刷費* ⁴		100,000
ホームページ管理費用		18,000
合 計		733,000

支部助成金 (内訳)		
看護	(50,000)	
検査技術科	(50,000)	
理学療法	(50,000)	
作業療法	(50,000)	
専攻科	(0)	

200,000
支出合計 933,000

*¹ 新入会員 人間健康科学科 15名 (予定数)
*² 事務局員人件費、文房具、コピー費
*³ 役員会・常任委員会日当、交通費
*⁴ 紫緑会だよりデータ作成費・入会案内印刷費

編集後記

今年は能登半島地震で幕を開けました。今夏はゲリラ豪雨や猛暑日の連続にもどこか慣れてきています。世界情勢を考えると暗い気持ちを抑えられないものの、連日放送されるパリオリンピック観戦を楽しみ日々を過ごしています。

この便りを皆様が見てくださる頃には、どんな秋が来ているでしょう。大きな災害がないといいのですが。地球は刻一刻と姿をかえて行きます。そんなことを書いたらすぐ、宮崎で地震が起き、2019年制定以後初めてという、南海トラフ大地震注意が発表されました。Web版初号の編集後記を書くことになり、下書きを始めた8月8日のことです。誰もが不安を掻き立てられざるを得ない世界の中で、明るさを持ち続けることは大切だと感じます。

さて、節約のためのWeb化は必要なことではありますが、郵送の紙面であったからこそその良さのひとつ、「自分からネットで見に行かなくても手元にやってくるリアル」がなくなることを本当は残念に思っています。Webの良さを生かす方向に目を向ける必要がありますが、最近はネットの良さよりも嫌な面が目についてしまいます。老いていく私自身の力不足も感じます。何事にも周りの皆様のお力添えをいただきながら、やっていくしかなさそうです。どうぞよろしくお願いたします。

副会長 梶原 香里 (作業療法学科 1985年卒)

紫緑会事務局

《住所等会員情報の変更がございましたら、事務局へメールか郵便にてご一報下さい。》

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53 京都大学医学部人間健康科学科内

E-mail: shiryokukai@gmail.com ホームページ: <http://shiryokukai.org/>